

近づく春

■動き出しているコメツキガニ

まだまだ水温は低く水中の生物の動きは目立たないが、ゴカイの仲間が巣穴から水を噴き出す様子が観察できる。日当たりの良い場所ではコメツキガニが活動した跡が観察され(Fig.1)、干潟北部では表面が藻類で緑色になっており(Fig.2)、春が近づいていることが感じられた。



Fig.1 コメツキガニの活動跡



Fig.2 表面が緑色になった干潟

■チドリの群れ

今年の冬はチドリの仲間が観察されていなかったが、今回シロチドリの群れが観察された(Fig.3)。陸側の枯れたヨシ原ではツグミ(Fig.4)が、カモ類はカルガモ、オナガガモ、マガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモと多くの種類が観察された。また、カンムリカイツブリ(Fig.5)をこれまでの調査で初めて観察した。

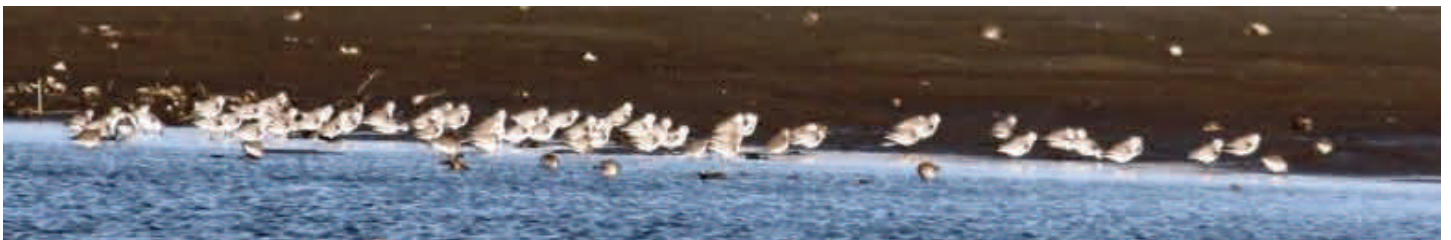


Fig.3 シロチドリの群れ



Fig.4 ツグミ

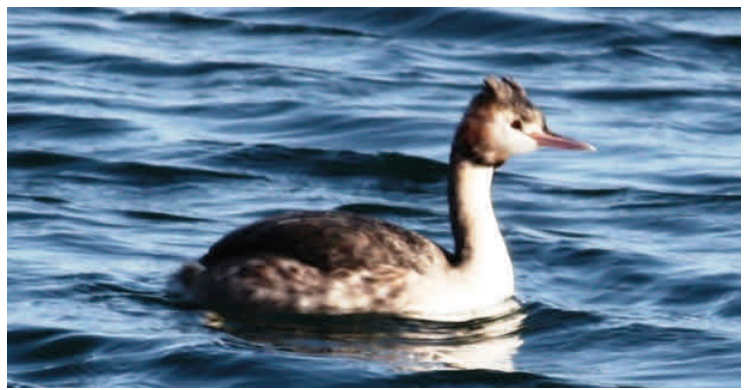


Fig.5 カンムリカイツブリ (佐藤 賢治)